



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第49回「2025年 年間スケジュール」

2025年が始まりました。国内外の経済や金融市場に影響を与えそうなイベントを確認しておくことは市場動向を想定する上で重要です。今週のウィークリーレポートでは、今年1年の注目すべきイベントについてまとめてみました。

～注目イベント① 第2次トランプ政権発足～

今年一番の注目イベントは、1月20日の大統領就任式で発足する第2次トランプ政権の政策です。第47代トランプ大統領は就任前からメキシコ、カナダからの輸入品に25%の関税をかけることや安全保障上の重要な地域として、パナマ運河やグリーンランド（デンマーク領）を米国に統合することなど過激な発言を繰り返しています。

就任式後すぐにトランプ大統領は選挙公約の一つである「全世界一律で輸入品に10～20%の関税をかける」ことを目論んでいるようです。この輸入関税を正当化するため、「国際緊急経済権限法」に基づく緊急事態宣言を発布することを検討しています。1月20日の就任式後、この緊急事態宣言を発布し、即座に全輸入品に10～20%の関税をかければ、相手国からの報復関税がかけられることも想定され、世界の貿易量は低下することになると考えます。また、もう一つの選挙公約である不法移民の排除、強制送還も政権発足後行われれば、米国の賃金水準は上昇し、収まりかけたインフレ状況は高進していくと思います。米国金融市場をはじめとする世界の金融市場は動揺することになるでしょう。ただ、見方を変えれば第2次トランプ政権はこれまでの世界経済のルールを根底から覆し、新しい秩序を作り出そうとしているのかもしれません。その結果が不合理なものであっても、暫くは新しいルールに則った政治・経済運営がなされていくと考えることも必要かもしれません。

～注目イベント② 日・米・欧の金融政策決定会合～

二番目の注目イベントは、第2次トランプ政権の新しいルールに対処する日・米・欧の中央銀行の金融政策を決める会議です。特に米国FRB（米国の中央銀行制度の最高意思決定機関：連邦準備制度理事会）は、今年2回行うと予測している政策金利の引下げをどのタイミングで行うのか、またトランプ政権の施策とどのように折り合いをつけて金融政策を行っていくのか、非常に難しい局面を迎えることになると思います。そのため、米国の連邦公開市場委員会（FOMC）動向には注目です。特に3月、6月、9月、12月の会合で発表される参加理事の今後の政策金利や経済状況の予測数値はその後の金融政策をどう進めていくのかのヒントとなる重要な資料です。

ヨーロッパ全体の金利政策を担っているECBの動きも注目です。EUの主要国であるドイツで、2月に連邦議会選挙が行われます。EU諸国ではポピュリズムの拡大で極左、極右など民主主義とはかけ離れた政党が政権与党となり自国第一主義を主張する国も出始めており、この2月の選挙で極右政党が過半数を獲得するようなことがあれば、EUの屋台骨は揺らぐ状況となり、ECBの金融政策遂行に影響すると考えます。

日本銀行の金融政策については、春闘での着実な賃金上昇や国内物価状況、欧米（FRBやECB）の金融政策などを勘案しながら、政策金利の引上げを緩やかに行っていくと思います。

～注目イベント③ 国内イベント～

次に国内の注目イベントを見ていきましょう。日本では7月に参議院議員の任期満了に伴う選挙が行われます。現在、少数与党となっている石破政権の命運は、自民・公明党連合が参議院で過半数を維持できるかどうかにかかっています。選挙の論点は、「103万円の壁」問題など所得を増やす政策論争が主流となると考えます。昨年末の与党税制調査会による、少額の所得区分の変更では所得の増加額はわずかであり、今月始まる通常国会で、このままでの予算案を通そうとすれば、自民・公明の与党連合に対する国民の反発は高くなるでしょう。所得区分の変更を増額すれば、国民の可処分所得（額面ではなく実際に手元に残る所得）が増え、消費中心に日本経済も潤うことになると考えます。

今後、国会でどのような議論がなされるかに注目しています。

国内のスポーツイベントでは、米大リーグの開幕戦、ロサンゼルス・ドジャース対シカゴ・カブスが3月18～19日の2日間東京ドームにて行われます。ドジャースの大谷翔平選手、山本由伸投手、カブスの鈴木誠也選手、今永昇太投手の日本人選手4名が出場する開幕戦に野球ファンのみならず日本国民の多くが注目するでしょう。日本の消費が拡大する起爆剤になればと考えます。他にも注目されるイベントは多々あります。添付の「2025年 注目イベント カレンダー」をご覧ください。

今後、金融市場が種々のイベントでどのような影響を受け、どのように動くのか、注意深く見ていきたいと思います。（以下「2025年 注目イベント カレンダー」を添付しています。）

2025年 注目イベント カレンダー	
1月	20日:米国大統領就任式 20～24日:世界経済フォーラム(ダボス会議) 年次総会 23～24:日本銀行金融政策決定会合 24日:通常国会召集(日本) 28～29日:米国FOMC(米連邦公開市場委員会) 30日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会
2月	23日:ドイツ連邦議会選挙
3月	5日:中国 全国人民代表会議開幕 6日:ECB理事会 18～19日:日本銀行金融政策決定会合 18～19日:米大リーグ開幕戦 ドジャース対カブス(東京ドーム) 18～19日:米国FOMC
4月	13日:2025年国際博覧会 開幕(大阪・関西万博) 10月13日まで 17日:ECB理事会 30～5月1日:日本銀行金融政策決定会合
5月	6～7日:米国FOMC 20～23日:IT見本市「台北国際電腦展(コンピューテックス台北)」
6月	5日:ECB理事会 16～17日:日本銀行金融政策決定会合 17～18日:米国FOMC 月内:G7サミット(主要7か国首脳会議) カナダ カナナスキスにて開催(日程未定)
7月	24日:ECB理事会 29～30日:米国FOMC 30～31日:日本銀行金融政策決定会合 月内:参議院議員選挙実施(日程未定)
8月	下旬:ジャクソンホール会議(日程未定)
9月	8日:日本全国で皆既月食が観測できる 11日:ECB理事会 16～17日:米国FOMC 18～19日:日本銀行金融政策決定会合
10月	14～17日:「CEATEC2025」(IT見本市)開催(幕張メッセ) 28～29日:米国FOMC 29～30日:日本銀行金融政策決定会合 30日:ECB理事会
11月	10～21日:COP30(国連気候変動枠組み条約締約国会議) ブラジルにて開催 22～23日:G20サミット(20か国・地域首脳会議) ヨハネスブルクにて開催
12月	9～10日:米国FOMC 17～19日:セミコン・ジャパン(半導体関連の見本市)開催(東京ビッグサイト) 18日:ECB理事会 18～19日:日本銀行金融政策決定会合

(西村証券 作成)